

Y3-33

音楽放送によるインシュリン注射・血糖測定忘れへの効果

姫路赤十字病院 医療安全推進室

○植田^{うえだ} 多恵子、種継^{たねつぎ} 恵、五百蔵 智明、
濱田 和代、森本 敦子、喜多 良昭、
最所 裕司、岩佐 修、山崎 よし子、
上坂 好一

平成20年のインシュリン注射・血糖測定忘れに関する報告は34件あった。報告書から事例が発生した背景・要因を分析すると、血糖の測定や注射の指示は確認していたが他のことをしていたら忘れていたという理由が多くあった。そこでインシュリン注射・血糖測定忘れを減少できるよう音楽放送を導入することにした。放送時間を決めるに当たり各部署の意見を聞いた。しかし10病棟あるため配膳時間の違いや、血糖測定とインシュリンの実施時間のどちらに重点を置くかで、それぞれが適当と考える時間には差があった。血糖測定後インシュリン注射を実施することから、インシュリン注射前の7時30分・11時30分・17時30分に音楽放送を行うことにし、放送する範囲は、ICUと各病棟とした。使用する音楽は、もともと院内にあったシステムを利用したため設定変更だけであった。放送開始後スタッフと患者より意見を収集した。患者からは、「音楽で血糖測定の時間・インシュリンの時間と気がつく。食事の時間と思う。」という意見があった。しかし患者の年齢によっては、「耳が遠いので聞こえない」という意見もあった。スタッフからは、「音楽放送を聴きあわてて血糖測定をしたことがある」「他の事をしていてもこの放送で時間の気づきになる」という意見があった。放送開始後も血糖測定やインシュリン注射忘れの報告はあり、その背景・要因は、勤務開始前に患者の情報収集を行ったが、その後血糖測定やインシュリンがあること自体を忘れており音楽を聴いても気がつかないというものがあり、今後別の対策も必要であると考えた。今回音楽放送の効果について報告する。

Y3-34

当院における外来化学療法を中心とした癌化学療法の安全管理

石巻赤十字病院 外科

○石井^{いしい} 正、金田^{かねだ} 巖

近年、癌化学療法は、患者のQOLの向上、無駄な入院をなくすことによる医療の効率化、短期間に多くの患者に化学療法を施行できる、という観点から外来化学療法へと軸足を移しつつある。患者にとっても、QOLの向上、社会的役割を果たすことができる、家族と長く過ごすことができる、主体的に治療に参加できる、というメリットがある。しかしながら、入院で行うのと比べてより一層の安全管理が必要になる。当院では、医師・看護師・薬剤師のトリプルチェックを基本とし、人は必ずミスをするというコンセプトの下、独自の電子オーダーリングシステムを開発した。このシステムにより、抗がん剤投与量の自動計算、過量投与の警告、登録レジメン以外のオーダーの禁止、次回治療オーダーのコピー、医療従事者間のオーダー伝達・stop or go伝達の電子化、インターバルチェック、化学療法センターベット・外来受診予約管理が可能になった。このオーダーリングシステムを中心に、当院での癌化学療法の安全管理への取り組みを紹介する。